

以上の結果に対し、統計学的検定を実施したところ上野地区の、買物に関する「楽しみのための行動」の実施率と来訪圏の関係、及び同地区の飲食に関する「楽しみのための行動」の実施率と来訪頻度との関係、の2つの分析に関し有意な違いが見られた。すなわち、上野地区であらかじめ買物を意図して来訪する場所は21km以上30km以内で減少した。

これらの分析から「食」を目当ての来訪者は比較的近隣地区から一定の頻度でリピートしている傾向である。また、同調査で、「今年初めて」の来訪者が、楽しみのための行動を行っていなかった背景の一つは、出発時において到着後の行動（目的）を意図する情報量が不足していたか、若しくは、「前回と比較して変化があるだろう」とする意識が働いたと推測できる。

4. 来訪者の滞在時間と消費金額

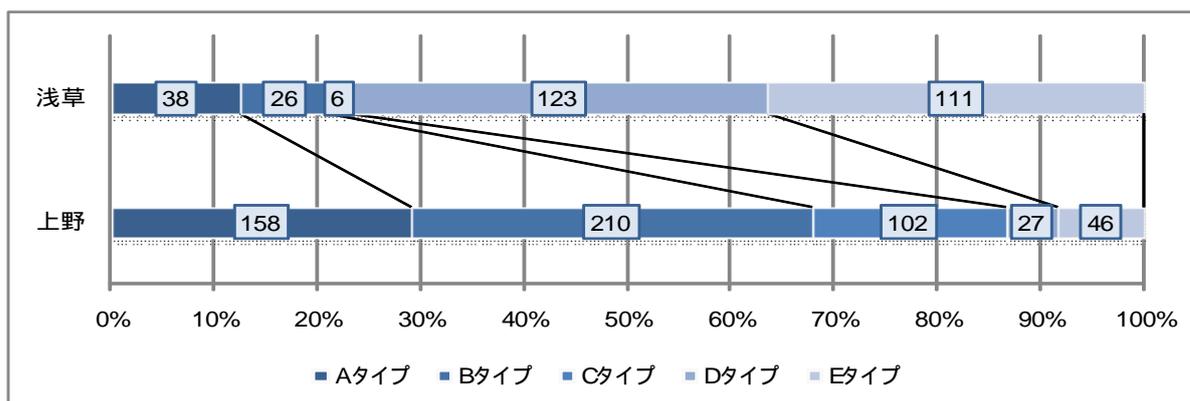
4-1. 来訪者の滞在時間

各地区の来訪者の活動タイプを表2-10に示したA～Eの5つに類型化し、各タイプに属する来訪者の滞在時間や消費金額（飲食・買物）を集計する。なお、表2-10のEタイプに寺社参拝、散歩・散策が含まれているが、当該分類は滞在時間と消費金額を集計するための区分であり、観光客としての推計値には算入している(表2-28)。

表2-10 来街者の活動タイプ

タイプ	特徴	データ数	
		上野	浅草
A	観光施設に立ち寄り、かつ、当該地区で「楽しみのための行動」を実施した来訪者	158	38
B	観光施設に立ち寄り、かつ、当該地区で買物又は飲食した来訪者（A以外）	210	26
C	観光施設に立ち寄ったが、当該地区で買物や飲食はしなかった来訪者	102	6
D	観光施設に立ち寄らず、当該地区で「楽しみのための行動」を実施した来訪者	27	123
E	それ以外の来訪者（日常目的・業務目的、若しくは寺社参拝、散歩・散策のみを行った来訪者と想定する）	46	111

表 2-10 の図 来訪者の地区別、活動タイプ比率（上野 n=543；浅草 n=304）

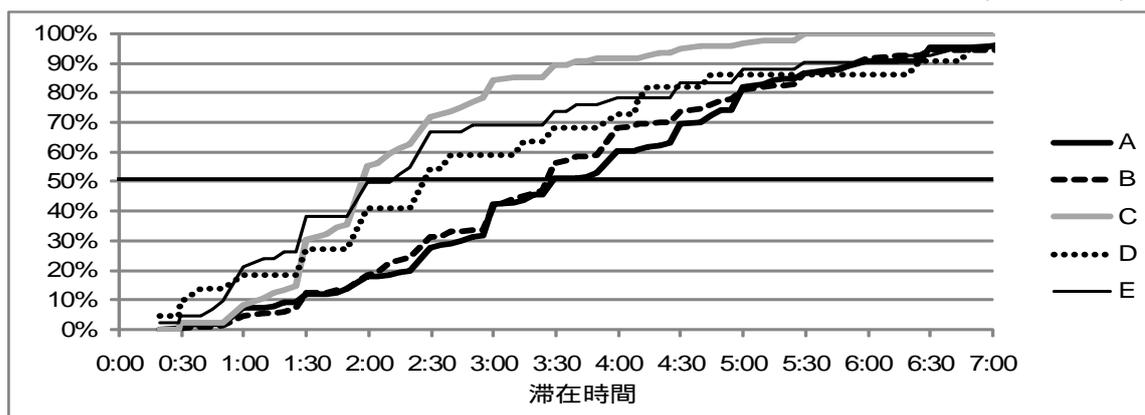


(1)上野地区

上野地区における来訪者の滞在時間分布を累積曲線⁴で示した。(図 2-32)。

- ・ A・Bの各タイプ：滞在時間が3時間に満たない割合が3割である。
- ・ Cタイプ：滞在時間3時間に満たない割合が8割に達する。
- ・ Dタイプ：観光施設のみを訪れたCタイプと比べて滞在時間が長くなる。

図 2-32 来訪者の滞在時間累積分布（上野地区）



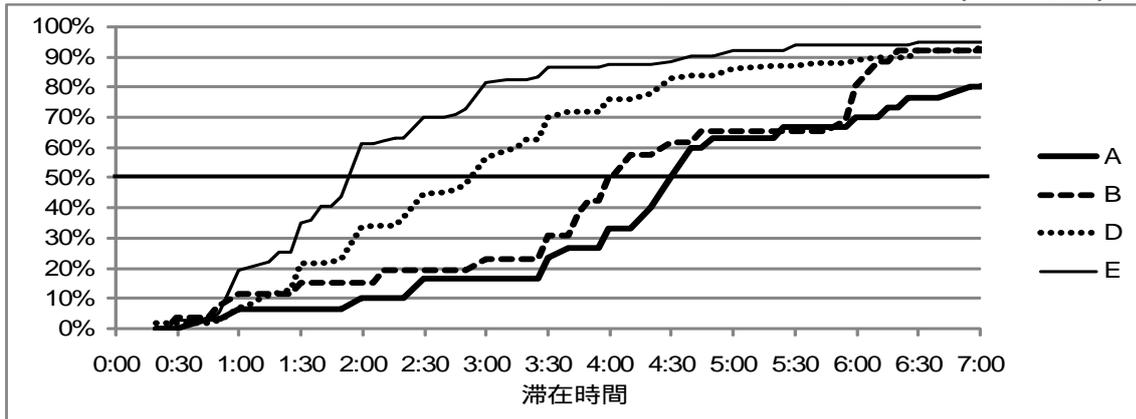
(2)浅草地区

観光施設への来訪者割合が多かった上野地区とは異なり、浅草地区では、DタイプやEタイプ（表 2-10）の割合が高い。また、観光施設のみを立ち寄るタイプCに該当する来訪者（回答者）は6名と少数であることから、分析対象からは外した。(図 2-33)

- ・ 観光施設立ち寄りのA、Bタイプ：滞在は、上野地区より長い、3時間以下である。
- ・ 「楽しみのための行動」を実施したA、Dタイプ：それぞれ、長くなる傾向にある。

⁴ 累積曲線：本図の場合、A～Eの各タイプに属する来訪者の滞在時間を短い順に並べ、その割合を示したものである。「図中の累積曲線は、滞在時間7時間以内の範囲で示している」

図 2-33 来訪者の滞在時間累積分布（浅草地区）



(3)各タイプの標準的な滞在時間

各対応の標準的な滞在時間を地区毎に整理したものが表 2-11 である。

表 2-11 各タイプの標準的な滞在時間（中央値）

タイプ	上野	浅草
Aタイプ	3 時間 30 分	4 時間 30 分
Bタイプ	3 時間 30 分	4 時間 00 分
Cタイプ	2 時間 00 分	-
Dタイプ	2 時間 30 分	3 時間 00 分
Eタイプ	2 時間 00 分	2 時間 00 分
全体	3 時間 00 分	2 時間 50 分

標準的な滞在時間を示す代表値として、本報告書では「中央値（50 パーセントイル値）」を用いた。「中央値」は、各タイプに属する来訪者の滞在時間を長い順に並べたとき、人数のちょうど半数にあたる順位の来訪者が滞在した時間のことである。つまり、来訪者の半数が「中央値」となる時間を滞在していることになる。全体の集計では、上野地区が 3 時間 00 分、浅草地区が 2 時間 50 分となり、上野地区の方が標準的な滞在時間が長い結果となった。タイプごとの標準的な滞在時間を見ると、各タイプともに浅草地区の方が 30 分～1 時間ほど長い傾向にある。また、「楽しみのための行動」を実施した A、D の各タイプは、それぞれ、B タイプ、E タイプの滞在時間よりも、30 分～1 時間ほど長い。

4-2. 来訪者全体の消費金額推計

(1)来訪者の活動タイプ別消費金額

報告書（第 2 章）で示したように、上野・浅草地区の「観光客」として捉えた範囲は表 A に示した通りである。そこで、それぞれの活動パターン別に消費金額（飲食代・買物代）の中央値⁵を示した。

⁵ 中央値；各タイプに属する来訪者の消費金額を長い順に並べたとき、人数のちょうど半数にあたる順位の来訪者が消費した金額

その結果をもとに、飲食代・買物代に関する上野・浅草各地区の「平均消費金額」を算出し、それに各地区の年間観光客数を乗ずることで、来訪者全体の消費金額を推計する。

表 A 来訪者の活動パターン

上野地域(広小路口サンプル・ウェイト付加後)

	観光施設入場	楽しみのための行動	サンプル数	割合	標準的な消費金額(中央値)	
					飲食	買物
観光客	A		200.5	21.9%	1,600	2,200
	B	x	499.0	54.6%	1,000	500
	C	x	85.0	9.3%	1,500	4,000
(参考) 消費金額の平均値					1,557	2,871
非観光客	x	x	129.0	14.1%	500	1,500

実施 x 非実施

浅草地域

	観光施設入場	楽しみのための行動	寺社参拝	サンプル数	割合	標準的な消費金額(中央値)	
						飲食	買物
観光客	D			35	9.6%	2,000	3,000
	E		x	3	0.8%	2,500	1,200
	F	x		33	9.0%	1,200	1,000
	G	x	x	8	2.2%	1,000	500
	H	x		134	36.6%	2,000	2,500
	I	x		16	4.4%	2,000	1,500
	J	x	x	121	33.1%	1,000	1,500
(参考) 消費金額の平均値						2,270	4,805
非観光客	x	x	x	16	4.4%	1,000	1,000

実施 x 非実施

(2)来訪者の平均消費金額

来訪者の平均消費金額は、表Aに示した活動タイプ別のサンプル数により重みづけした標準的な消費金額(中央値)の平均値を用いることにする。

その結果、表Bに示した通り求められた。

表 B 来訪者の平均消費金額

上野(飲食)					上野(買物)						
金額(中央値)		サンプル数			金額(中央値)		サンプル数				
A	1,600	x	200.5	=	320,800	A	2,200	x	200.5	=	441,100
B	1,000	x	499.0	=	499,000	B	500	x	499.0	=	249,500
C	1,500	x	85.0	=	127,500	C	4,000	x	85.0	=	340,000
		小計	784.5		947,300			小計	784.5		1,030,600
平均消費金額					1,208	平均消費金額					1,314

浅草(飲食)					浅草(買物)						
金額(中央値)		サンプル数			金額(中央値)		サンプル数				
D	2,000	x	35	=	70,000	D	3,000	x	35	=	105,000
E	2,500	x	3	=	7,500	E	1,200	x	3	=	3,600
F	1,200	x	33	=	39,600	F	1,000	x	33	=	33,000
G	1,000	x	8	=	8,000	G	500	x	8	=	4,000
H	2,000	x	134	=	268,000	H	2,500	x	134	=	335,000
I	2,000	x	16	=	32,000	I	1,500	x	16	=	24,000
J	1,000	x	121	=	121,000	J	1,500	x	121	=	181,500
		小計	350		546,100			小計	350		686,100
平均消費金額					1,560	平均消費金額					1,960

(3)対象とする観光客の種類及び推計結果

上記の消費金額に関する計算は、報告書（第2章）の表2-39に示した「平常時における年間観光客数」を対象にしたものである。外国人観光客や宿泊観光客に関するデータ数は少ないため対象から外す。

以上の数値をもとに、飲食と買物に関する年間消費金額を推計した結果、表Cに示した通りになった。飲食では295～358億円、買物では349～419億円と推計された。

なお、前回の「観光客マーケット調査」結果と比較するため、前回同様の手法である、回答者の消費金額の「平均値」を用いた結果を合わせて掲載する。結果は特に買物の消費金額が819～977億円と高額になる。従来通り「平均値」を用いる手法では、高額を消費したごく一部の回答者が「平均消費金額」を引き上げる懸念があるため、「平均値」を用いた集計は過大に推計される。

表C 観光客による年間消費金額

		平均消費金額		年間観光客数					
飲食	最小	上野	1,208	×	1,057 万人	=	127.7 億円	最小	295.1 億円
		浅草	1,560	×	1,073 万人	=	167.4 億円		
	最大	上野	1,208	×	1,468 万人	=	177.3 億円	最大	358.0 億円
		浅草	1,560	×	1,158 万人	=	180.6 億円		
買物	最小	上野	1,314	×	1,057 万人	=	138.9 億円	最小	349.2 億円
		浅草	1,960	×	1,073 万人	=	210.3 億円		
	最大	上野	1,314	×	1,468 万人	=	192.9 億円	最大	419.9 億円
		浅草	1,960	×	1,158 万人	=	227.0 億円		

【参考】従来手法(中央値でなく平均値を使用した場合)による計算

		平均消費金額		年間観光客数					
飲食	最小	上野	1,557	×	1,057 万人	=	164.6 億円	最小	408.1 億円
		浅草	2,270	×	1,073 万人	=	243.6 億円		
	最大	上野	1,557	×	1,468 万人	=	228.6 億円	最大	491.4 億円
		浅草	2,270	×	1,158 万人	=	262.9 億円		
買物	最小	上野	2,871	×	1,057 万人	=	303.5 億円	最小	819.0 億円
		浅草	4,805	×	1,073 万人	=	515.6 億円		
	最大	上野	2,871	×	1,468 万人	=	421.5 億円	最大	977.9 億円
		浅草	4,805	×	1,158 万人	=	556.4 億円		

5. 上野・浅草地区における年間観光客数の推計

5-1. 年間観光客数の推計プロセス

着地側調査の結果を踏まえ、上野地区、浅草地区それぞれの年間観光客数を推計する。年間観光客数の推計プロセスは、表2-13に示したプロセスの順に行うことにするが、単純にこれらの人数を足し合わせて、両地区の年間観光客数とすることには、以下に示す問題がある。

表 2-13-(1)で求めた平常時の観光客数に対して、「純粹に」上乘するイベント入場者数を求めることは難しく、単純に足し合わせることで重複カウントになる可能性がある。また、イベント入場者数は主催者発表のものを使用しているうえ、「有料」でないイベントの場合は、入場者のカウント方法を基準化していないため、外数の参考値として集計する。

表 2-13-(4)の外国人観光客数については、宿泊客を対象にしたアンケート調査結果及び、観光施設の外国人入館者割合の他、浅草寺におけるカウント調査結果を基に推計を試みる。なお、詳細は次節で述べる。

表 2-13 年間観光客数の推計プロセス

推 計 手 法	概 要	推 計 対 象 対 象 地 区	
		日 本 人	外 国 人
プロセス 1 平常時における、 年間観光客数の推計	・着地側調査は「平常時」の来訪者行動を示したものであるため、その結果を基に、平常時における両地区の観光客数を推計する。	×	×
プロセス 2 イベント入場者数 (主催者発表)集計	・主催者発表の数値を用いて、イベント入場者数を集計する。 ・本文 に示した課題により、外数として集計する。	(区分なし)	×
プロセス 3 宿泊観光客数の推計	・宿泊施設へのヒアリング等により年間宿泊客数を集計する。 ・また、上記のうち Step1 に該当しない宿泊客数を推計する。	×	×
プロセス 4 年間外国人観光客数の推計	・宿泊観光客数並びに、観光施設における外国人入館者割合の他、浅草寺におけるカウント調査を基に、年間外国人観光客数を推計する。 * Step4 のみ、次章で詳述する。	×	×

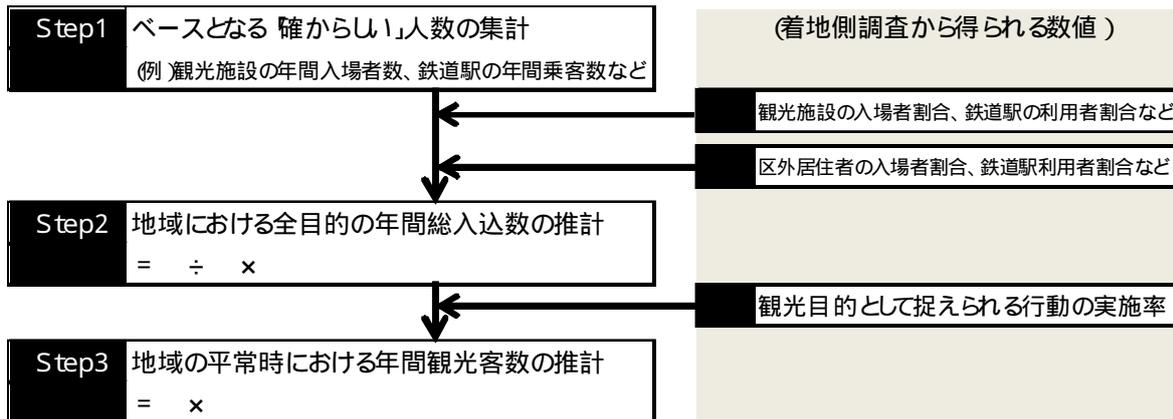
注；対象地区 上野・浅草地区 台東区内全域

5-2 . プロセス 1:平常時における年間観光客数の推計

(1)推計方法

一年のうち「数日」のみをサンプリング調査した着地側調査の結果を基に、平常時における年間観光客数を推計することになる。そのため、図 2-34 に示したように、(有料の)観光施設の入場者数や鉄道駅の乗客数・降客数といった、比較的「確からしい」人数をベースとして、その入場者や利用者の割合を着地側調査から求め、各地区における全目的の「年間総入込み数」を求めることが必要である。なお、平常時における年間観光客数の推計にあたっては、台東区外からの来訪者のみを対象とする。

図 2-34 平常時における年間観光客数の推計フロー



このとき、Step1 に示した、ベースとなる「確からしい」人数に、何を採用するかについては、観光地区の特性によって「相性」がある。本報告書では、以下に示す 3 種類のベースとなる人数を用意して、上野・浅草各地区に適した数値を採用することにした。

各地区の観光施設における年間入場者数

(本調査で調査・ヒアリングした数値)

各地区の鉄道駅における乗客数・降客数

(本調査でヒアリングした数値及び、大都市交通センサス⁶による数値)

各地区の歩行者交通量 (本調査で調査した数値)

(2) 各地区の観光施設における年間入場者数からの推計

台東区内の観光施設 41 箇所に調査票を配布し、平成 20 年 (平成 20 年 1 月 ~ 12 月) の年間入場者数を質問した結果、29 箇所から回答を得ることができた。表 2-14 は、その結果を整理したものである。未回答の 12 施設は、平成 16 年度若しくは平成 18 年度の『台東区観光客マーケティング調査報告書』を基準に増加分を乗じて推計した。

⁶ 大都市交通センサス：首都圏・中京圏・近畿圏の三大都市圏における、公共交通機関（鉄道・乗合バス・路面電車等）の利用実態を明らかにする調査。各路線・鉄道駅毎、一日当たりの乗降客数の他、乗換客数も分かる。本報告書で用いた数値は、2005 年 10 月（第 10 回）のデータである。

表 2-14 台東区内主要文化施設 年間入場者数

No.	地域名	観光施設名	所在地	区分	年間入場者数	
					平成20年	備考
1	上野(上野公園)	東京国立博物館	上野公園13-9	国	2,212,967	
2	上野(上野公園)	国立科学博物館	上野公園7-20	国	1,474,033	
3	上野(上野公園)	国立西洋美術館	上野公園7-7	国	1,024,869	
4	上野(上野公園)	東京都美術館	上野公園8-36	都	2,806,772	
5	上野(上野公園)	旧東京音楽学校奏楽堂	上野公園8-43	区	39,425	
6	上野(上野公園)	上野動物園	上野公園9-83	都	3,053,317	
7	上野(上野公園)	上野の森美術館	上野公園1-2	民間	-	
8	上野(上野公園)	黒田記念館	上野公園13-43	民間	-	(H18)
9	上野(上野公園)	芸大美術館	上野公園12-8	国	184,374	(H18)
10	上野(上野公園)	芸大奏楽堂	上野公園12-8	国	51,303	(H18)
11	上野(上野公園)	国際子ども図書館	上野公園12-49	国	104,409	(H18)
12	上野(上野公園)	東京文化会館	上野公園5-45	都	413,494	(H18)
13	上野(上野公園)	日本芸術院	上野公園1-30	国	27,153	(H18)
14	上野(上野)	下町風俗資料館	上野公園2-1	区	66,195	
15	上野(上野)	付設展示場	上野桜木2-10-6	区	63,266	
16	上野(上野)	世界の銀器館	東上野3-1-13	民間	-	(H18)
17	上野(上野)	鈴木演芸場	上野2-7-12	民間	-	(H18)
18	上野(上野)	旧岩崎邸庭園	池之端1-3-45	都	209,992	
19	上野(上野)	横山大観記念館	池之端1-4-24	民間	-	
上野地区(小計)					12,239,211	
20	浅草(浅草公園)	浅草演芸ホール	浅草1-43-12	民間	-	
21	浅草(浅草公園)	大勝館	浅草2-10-1	民間	-	(H18)
22	浅草(浅草公園)	江戸下町伝統工芸館	浅草2-22-13	区	132,901	
23	浅草(浅草公園)	花やしき遊園地	浅草2-28-1	民間	-	
24	浅草(浅草公園)	木馬館/木馬亭	浅草2-7-5	民間	-	
25	浅草(浅草公園)	浅草公会堂	浅草1-38-6	区	208,628	
26	浅草(かっぱ橋)	太鼓館	西浅草2-1-1	民間	-	
27	浅草(かっぱ橋)	テプロ浅草館	西浅草2-27-7	民間	-	
28	浅草(かっぱ橋)	池波正太郎記念文庫	西浅草3-25-26	区	49,322	
29	浅草(かっぱ橋)	象牙工芸館	西浅草3-26-3	民間	-	(H18)
浅草地区(小計)					1,353,038	
30	区内(谷中)	朝倉彫塑館	谷中7-18-10	区	38,964	
31	区内(谷中)	大名時計博物館	谷中2-1-27	区	4,690	
32	区内(根岸)	ねぎし三平堂	根岸2-10-12	民間	-	
33	区内(根岸)	書道博物館	根岸2-10-4	区	14,436	
34	区内(根岸)	子規庵	根岸2-5-11	民間	-	
35	区内(根岸)	硯の資料館	根岸3-3-18-201	民間	-	(H18)
36	区内	一葉記念館	竜泉3-18-4	区	24,353	
37	区内	エース世界のカバン館	駒形1-8-10	民間	-	
38	区内	皮革産業資料館	橋場1-36-2	民間	-	
39	区内	かわとはきものギャラリー	花川戸1-14-16	都	99	
40	区内	日本文具資料館	柳橋1-1-15	民間	-	
41	区内	袋物参考館	浅草橋2-4-1	民間	-	(H18)
台東区内合計					13,707,914	

集計結果は、上野地区：1,224 万人、浅草地区：145 万人（いずれも延べ数）となった。なお、一部の施設で年間入場者数が「非公表」となっているが、上記の合計値には含めた。

各地区の観光施設における年間入場者数の「実数」を導き出すためには、1 人の来訪者が一回の訪問につき複数の観光施設に入場している可能性を考慮する必要がある。そこで、着地側調査を基に、表 14 に示した観光施設のうち、特に入場者の多い施設を対象に来訪者一人あたりの平均立ち寄り箇所を求め、それを図 2-35 に示したフローにしたがって計算することで、上野・浅草各地区における観光施設の年間入場者数の「実数」を推計することにした。その結果、総入込み数に比べて観光施設に入館する割合の低い(後述)浅草地区では、平均立ち寄り箇所数が 1.00 となったが、上野地区では 1.18 箇所となった(表 2-15)。

図 2-35 観光施設における年間入場者数（実数）の推計フロー

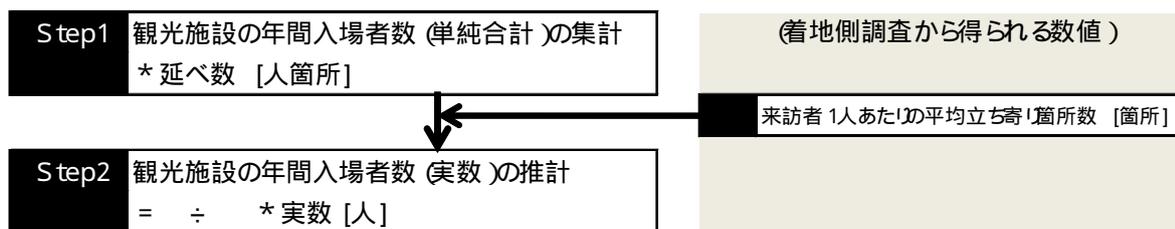


表 2-15 観光施設の平均立ち寄り箇所数と年間入場者数実数の推計

	延べ数	箇所数	実数
上野地区	12,239,211	1.18	10,372,213
浅草地区	1,140,744	1.00	1,140,744
	[人箇所]	[箇所]	[人]

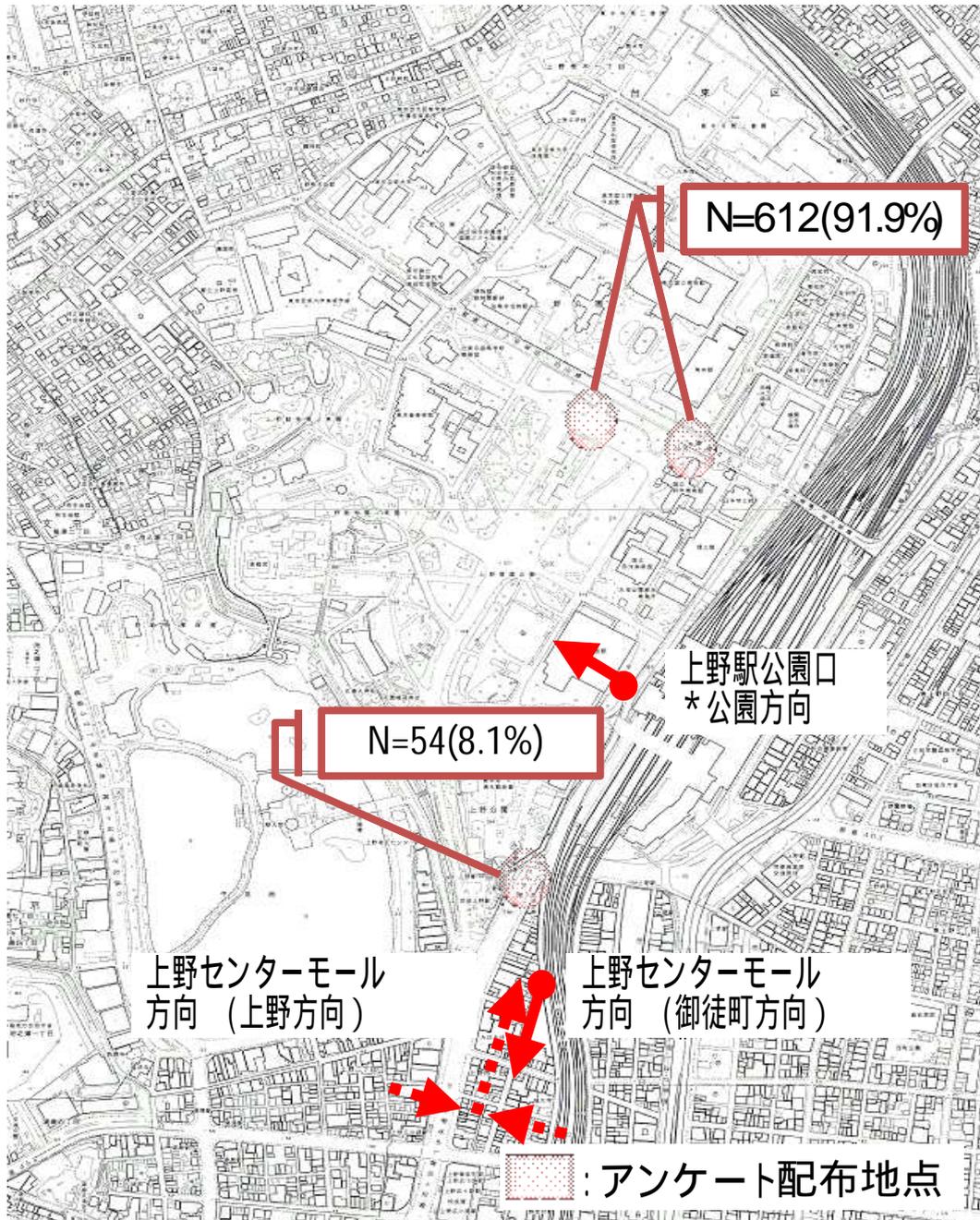
アンケートサンプリングの偏りの修正

次に、各地区における観光施設の立ち寄り率を集計した(表 2-16)。上野地区では、来訪者の 85.4%が観光施設に入場しているのに対し、浅草地区では 21.6%に過ぎない。しかし、図 2-36 に示した上野地区の着地側調査の回収比率を見ると、公園口での回収比率が極めて高くなり、サンプリングの偏りが懸念される。

表 2-16 観光施設の立ち寄り率

上野地域			
動物園見学	芸術鑑賞	サンプル数	割合
		22	3.3%
	×	35	5.3%
×		512	76.9%
×	×	97	14.6%
		実施	× 非実施
浅草地域			
花やしき来園	演芸鑑賞	サンプル数	割合
		6	1.6%
	×	17	4.6%
×		56	15.3%
×	×	287	78.4%
		実施	× 非実施

図 2-36 アンケート配布地点・歩行者交通量観測地点
(N; 配布数、()内は各地区の配布数全体に占める割合)



サンプリングの偏りを修正するために本報告書では、3月・6月・9月・12月の平休日各1日に実施した上野駅公園口における歩行者交通量調査結果と、上野センターモールにおける通行量自動計測システムの結果を基に、歩行者交通量の「確からしい」比率を算出し、データ数の少ない広小路口側のサンプルに「ウェイト」をかけることにした。

表 2-17 は、上野駅公園口における歩行者交通量(各日とも9時～17時。駅から公園方向に入場する交通量)とともに、上野センターモールにおける歩行者交通量を示した。

上野センターモールにおける歩行者交通量は、上野駅から御徒町駅方面の交通量(方向